

氏名：小林麻衣子

実施国：ネパール

協力活動

(1) 計画通りに実施されましたか？運営面・経理面での変更点はありましたか？

以下、計画書に記載された活動内容に基づいて報告いたします。

1. 事業実施予定対象地において、母子保健の概況が明確にされる

計画通り、当該地域（ナワルパラシ郡）の関係機関（郡保健局、郡開発局、郡立病院）にて、妊産婦死亡率や乳幼児死亡率などの数値データを収集するとともに、聞き取り調査を実施し、郡の開発政策や現状についての情報収集を行った。

また、郡内の行政村区（VDC）を一つ選出し、同村区の地域診療所（サブ・ヘルスポスト）において妊産婦や乳幼児に多い問題、妊産婦検診受診数などについて情報収集を行った。

2. 農村地域における、母子保健に関する問題の特性が明らかになる

上記で選出した VDC から、3 コミュニティを選出し、農村地域における妊産婦や乳幼児の現状を明確にするよう聞き取り調査及び観察調査を行った。特に、伝統産婆による分娩介助のあり方、緊急時の搬送手段、貧困世帯に対する経済的な救済システムの有無など、共同体の中で生きる人々の生活の実態を把握するよう試みた。

3. 受益者が特定され、彼らの意思決定に基づいて活動計画が策定される

上記 2 の調査に基づいて、「母子健康改善事業」を実施する上でのターゲットグループを特定し、嫁、夫、姑の 3 グループごとにディスカッションを行った。各グループが日ごろ感じている問題を明確にすることができ、事業を実施する際にどのように彼らを巻き込むかということについて考えるきっかけになったが、この時点では、ターゲットグループ（受益者）の意思決定に基づくプロセスによりアクションプランを作成するまでには至らなかった。

費用の面では、申請時に購入を想定していた資機材については、現地で活用可能な既存のリソースを確保するよう努め、今回は購入を控えたため、申請時に計上した予算より安価に活動を実施することができた。

(2) 実施の結果（良かった点、反省点を含めて）

活動実施期間は約 2 ヶ月であったが、多くの時間を農村地域を訪問することに費やし、調査対象とした 3 コミュニティにおいては、全世帯を訪問しコミュニケーションを取ることができた。特定のコミュニティにおいて時間をかけて調査することで、各世帯の個々人の状況について理解を深めることができ、「村は一般化できない」という認識を持つことができた。

本活動の実施目的は、(1)当該地域における母子健康改善支援事業が立案されることと、(2)ターゲットグループの人々との連携を促進し、「住民参加」の実現を図ることであった。現在、同地域においては、母子健康改善事業が形成され、今回の調査結果が反映されたものになっている。

また、対象地域の人々と時間をかけて関係を構築したことで、事業実施についての理解や受け入れが円滑に進んだと感じている。

(3) 異国の参加者同士または本人が相互理解を深めたと確信できた場面は？

または実施事業に対する一般の反響は？「協力活動」「調査研究」「海外での研修」



写真は、活動実施者のコミュニティでの様子である。活動対象地を訪問し始めた当初は、突然訪れた外国人に対して警戒の色を隠せない様子であったが、ネパールの農村のことを知りたいと伝え、一軒ごとに時間をかけて対話を重ねていくと、「次は家に来てくれ」、「もっと話を聞いてほしい」と言われるようになった。海外からの調査ということで、援助を期待されることが多いと聞くが、接し方次第で引き出せる情報が異なることを実感することができた。

